

第4回 高知県新食肉センター整備検討会

次 第

平成29年5月19日（金）13:30～16:00

高知市文化プラザかるぽーと11階大講義室

1 開 会

2 議 事

(1) 第3回検討会での主な意見について

(2) 施設の規模と機能について

(3) 運営体制について

(4) 整備の場所について

3 その他

4 閉 会

「配付資料」

資料1 新食肉センター整備の今後の主な検討事項

資料2 新食肉センターが新たに取り込む機能について

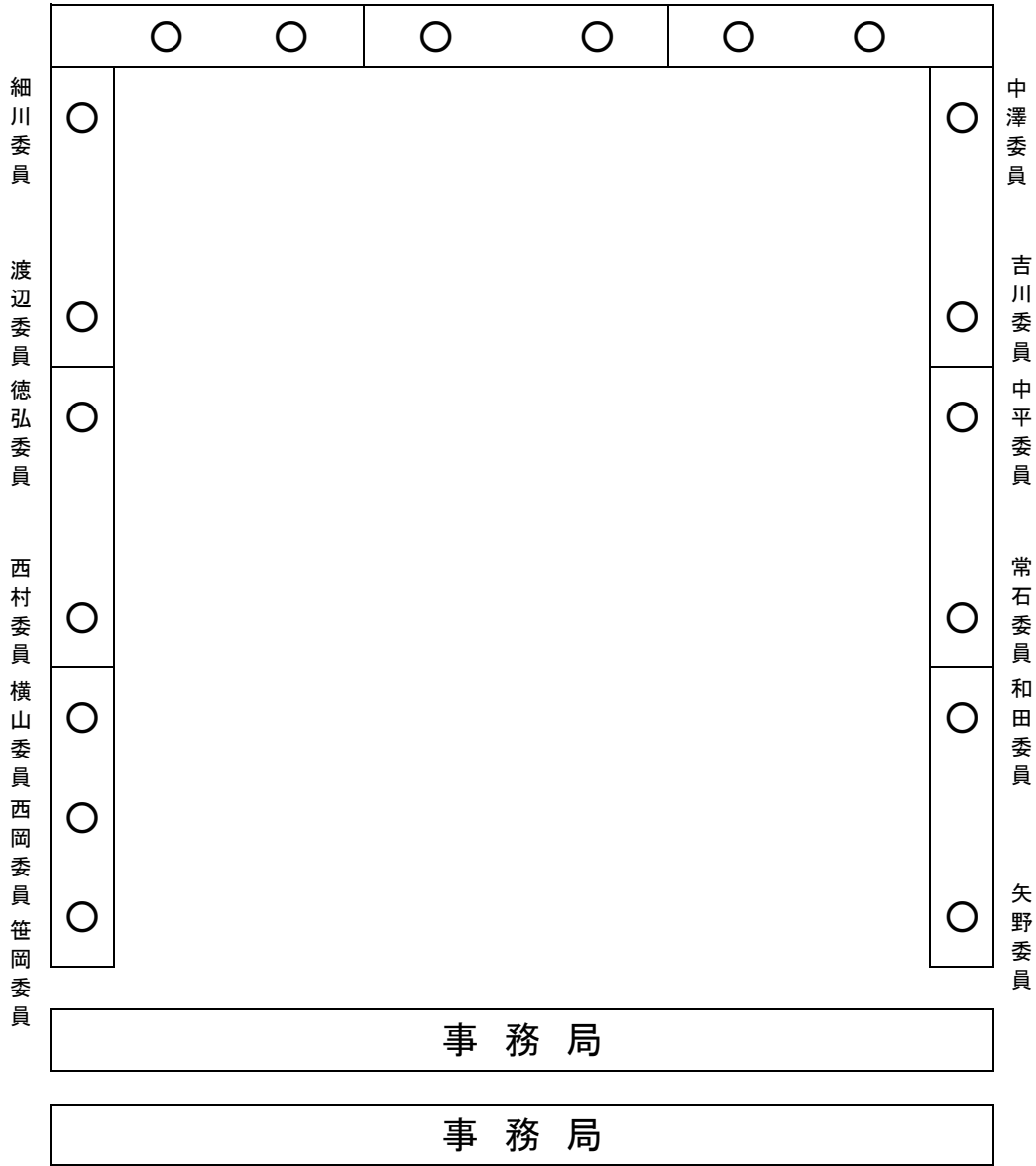
資料3 新食肉センターの設置・運営体制について

高知県新食肉センター整備検討会委員名簿(19名)

区分	所属	職名	氏名	代理
学識経験者 (3)	高知大学	教授	飯國 芳明	出席
	(一社)高知県畜産会	専務理事	澤田 章史	出席
	(公財)日本食肉生産技術開発センター	専務理事	細見 隆夫	出席
市町村 (7)	高知市	副市長	中澤 慎二	出席
	南国市	副市長	吉川 宏幸	出席
	四万十市	市長	中平 正宏	中山副市長
	田野町	町長	常石 博高	山本まちづくり 推進課長
	土佐町	町長	和田 守也	出席
	禰原町	町長	矢野 富夫	出席
	四万十町	町長	中尾 博憲	森副町長
センター利用業者 (2)	全国農業協同組合連合会高知県本部	本部長	濱口 達也	出席
	高知県中央食肉事業協同組合	理事長	三谷 勝義	出席
生産者 (2)	高知県肉用牛研究会	会長	細川 茂幸	出席
	高知県養豚協会	会長	渡辺 典勝	出席
生産者団体 (2)	高知県農業協同組合中央会	自己改革推進室部長	徳弘 吉哉	出席
	土佐れいほく農業協同組合	組合長	西村 行雄	出席
量販店・消費者代表 (2)	(株)サンシャインチェーン本部	精肉課長	横山 順二	出席
	高知県生活協同組合連合会	専務理事	西岡 雅行	山下事務局長
高知県 (1)	農業振興部	部長	笹岡 貴文	出席

第4回 高知県新食肉センター整備検討会 配席図

三谷委員 中尾委員 濱口副委員長 飯國委員長 澤田委員 細見委員



傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

入口

高知県新食肉センター整備検討会スケジュール

年度	年月日	項目	協議事項等	
28 年度	H28.11.10	第1回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> キックオフ 高知県の畜産の現状について 基調講演「高知県が新たに食肉センターを整備するに当たって留意すべきこと」 意見交換 	
	H28.12.1	第2回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> 新食肉センター整備の今後の主な検討事項（案）について意見交換 整備の基本的な考え方（目的）について意見交換（1回目） 現状分析と建設コスト等の試算について、第3回までに調査 	
			現状分析	建設コスト等の試算
			↓	↓
			専門家による分析・調査 (1) 外部環境と内部環境を分析。 (2) 「強み」及び「弱み」並びに「機会」及び「脅威」を明らかにする。 (3) 強みを活かし、弱みを克服し、機会を取り込み、脅威を回避するためにはどのようにしたらよいかを分析し、検討する。	(1) 現在地で建て替えた場合 (2) その他の適地で建て替えた場合 (3) 統合した場合 の建築コスト、工期、経営収支などについて調査
	H29.2.23	第3回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> 整備の基本的な考え方（目的）について検討（2回目） 現状分析の調査結果について報告、情報共有 新食肉センターの施設の規模と機能について意見交換（1回目） 意見交換を踏まえて第4回までの調査項目を決定 	
		専門家による分析・調査		
29 年度	H29.5.19	第4回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> 新食肉センターの施設の規模と機能について検討（2回目） 運営体制、整備の場所について意見交換（1回目） 残った課題の解決と次回までに必要に応じて調査 	
		専門家による分析・調査		
	H29.6中旬（予定）	第5回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制、整備の場所について検討（2回目） 建設の事業実施主体及び建設費用の経費負担について意見交換（1回目） 残った課題の解決と次回までに必要に応じて調査 	
		専門家による分析・調査		
	H29.8中旬（予定）	第6回整備検討会開催	<ul style="list-style-type: none"> 建設の事業実施主体及び建設費用の経費負担について検討（2回目） 新食肉センター整備計画書（案）の検討 	

新食肉センター整備の今後の主な検討事項

1. 整備の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 1～3
2. 本県の食肉処理を取り巻く現状・・・・・・・・ 4
3. 施設の規模と機能（案）・・・・・・・・・・ 5～9
 - (1) 生産と処理頭数の見通し
 - (2) 施設の規模と求められる機能
4. 整備の場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
5. 運営の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
6. 施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

<p style="text-align: center;">検討事項</p>	<p style="text-align: center;">主な視点・論点</p>	<p style="text-align: center;">これまでに示された意見や提案等</p> <p> <input type="checkbox"/>：あり方検討委員会で出された意見（議論の中で出された意見であり、答申書の内容とは異なる場合がある） <input type="checkbox"/>：出荷団体の全農と食肉事業組合から提出された方策 <input type="checkbox"/>：県の考え方 <input type="checkbox"/>①：第1回整備検討会で出された意見 <input type="checkbox"/>②：第2回整備検討会で出された意見 <input type="checkbox"/>③：第3回整備検討会で出された意見 </p>
<p>1. 整備の基本的な考え方</p> <p>(1) 食肉センターは、と畜やセリ、加工、流通販売などの機能を通じて、生産の拡大や食肉加工による畜産物の高付加価値化、地産外商の強化や県民への安全・安心な食肉の供給といった、いわゆる川上、川中、川下の取り組みを好循環させ、拡大再生産につなげていく重要な役割を担っている。</p> <p>(2) 食肉センターは、本県畜産の振興のために必要不可欠な施設であり、県が中心となり、市町村、JAグループ等と連携して、新施設の整備を進めて行く。</p> <p>(3) 新施設は、と畜機能、流通機能、その他必要な機能を備えたものとし、ブランド化、海外への輸出等にも対応するとともに、食の安全を求める県民のニーズに対応できる、高度な衛生管理を実現できる施設を目指す。</p> <p>(4) 牛や豚の新たな価値を生み出し、高知県ならではの食肉センターを目指していく。</p> <p>注：今後、検討会で示された意見や提案等については、「整備の基本的な考え方」に追</p>	<p>○食肉センターの役割は何か。</p> <p>○整備の方向性をどういったものにするか。</p>	<p><input type="checkbox"/>高知県の畜産業を守り、生産者と消費者を結ぶ拠点としての存在意義、必要性は重要になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>出荷団体による「流通機能」を重視し存続させるとともに、と畜事業を「廃止」する。</p> <p><input type="checkbox"/>広域食肉センターを存続させる場合は、施設の老朽化及び耐震基準の問題から、建替えは避けられない。</p> <p><input type="checkbox"/>経費の削減を実施し、収支均衡を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/>食肉センターは、いわゆる川上、川中、川下の取り組みを好循環させ、拡大再生産につなげていく重要な役割を担っている。</p> <p>・本県の畜産振興のために必要不可欠な施設であり、県内に存続すべきもの。</p> <p><input type="checkbox"/>ブランド化、海外への輸出等にも対応するとともに、食の安全を求める県民のニーズに対応できる、高度な衛生管理を実現できる施設を目指す。</p> <p>①食肉センターは必要であり、本会をこれから先に夢が広がる会としたい。</p>

加していく。

①畜産振興は地方創生そのものである。

①高知県ならではの食肉センターのあり方を検討する必要がある。

①県内でのと畜・流通を確保してもらいたい。

①高知県の産業を発展させていく視点で食肉センターの整備計画ができればよいと考える。

①市町村として、これ以上の赤字負担は困難。

②整備に関しては、畜産の振興、食肉産業の振興、高品質で安全な食肉を供給するという再生戦略、健全な経営の4つの観点がある。

②農家の振興が必要。計画を実施する事業主体の決定が重要。機能としては、畜産振興ばかりではなく、地域産業としての振興を図りたい。

②高知県ならではの食肉センターの考え方は、牛や豚の新たな価値を生み出していくこと。

③消費者はBSEや口蹄疫などの問題が発生すると、どこでと畜されているのか気にするようになるので、新センターは消費者が安心できるような施設になればと思う。

③東西に長い高知県では生産者の視点で考える必要がある。食肉センターは川上から川下までうまく流すための道具。新センターを整備したが、川上の農家がしんどい思いをすることになったというようなことは避けたい。

③この検討会は、高知市にある食肉センターを何とか存続できないかということで立ち上げたものであり、まずは高知市での存続の可能性を議論すべき。

検討事項	主な視点・論点	これまでに示された意見や提案等
<p>2. 本県の食肉処理を取り巻く現状</p> <p>(高知県広域食肉センターを取り巻く環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HACCP導入による県産食肉の消費者の信頼の向上 ・ HACCPの義務化 ・ 海外への食肉の輸出 ・ 四国3県の食肉処理施設の整備 <p>(高知県広域食肉センターの現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国唯一の土佐あかうしの食肉卸売市場 ・ 大消費地である高知市にある。 ・ 施設が老朽化しており、衛生の高度化ができない。 ・ 稼働率が低く、経営が赤字である。 <p>(新施設の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HACCPの導入 ・ 利益がでる事業を実施 ・ 地産地消・外商を行い、消費の増加対策による枝肉価格の維持 	<p>○食肉センターを整備していくに当たって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強み（S）は何か。 例：土佐あかうしをほぼ全頭と畜している。 ・ 弱み（W）は何か。 例：施設が老朽化している。HACCPシステム未対応。 ・ 機会（O）は何か。 例：土佐あかうしや四万十ポークの人気の高まり。 ・ 脅威（T）は何か。 例：四国内における食肉センター整備の動き <p>○強みを活かし、弱みを克服し、機会を取り込み、脅威を回避するためにはどのようにしたらよいか。</p>	<p>①高知県ならではの食肉センターのあり方を検討する必要がある。</p> <p>②外部分析として、マクロな面（政治、社会、農業の情勢）と食肉業界の分析の現状と動向の調査が必要。また、内部分析として、両食肉センターの生産の現状を把握し、強みと弱みを整理する必要がある。</p> <p><u>③現在あかうしが足りないと思っている。もっと増やしても大丈夫。高齢化で赤身肉の需要は伸びると考えている。これは高知県の強みだと思う。</u></p>

検討事項	主な視点・論点	これまでに示された意見や提案等																
<p>3. 施設の規模と機能（案）</p> <p>（1）生産と処理頭数の見通し</p> <p>① 生産の見通し</p> <p>（ア）土佐あかうし</p> <p>【平成36年度に向けて】</p> <p>牛肉需要の高まりに対応するため、乳用牛への受精卵移植による子牛生産や繁殖雌牛の増頭、施設整備等、産業振興計画に基づき増頭する。</p> <p>【平成46年度に向けて】</p> <p>県内需要を拡大し、新たな販路や有利な販売先を確保、新規就農者の確保や新たな生産拠点の整備により増頭を推進する。</p> <p>（イ）黒牛</p> <p>【平成36年度に向けて】</p> <p>子牛不足に対応するため、繁殖雌牛の増頭、施設整備の推進等、産業振興計画に基づき増頭する。</p> <p>【平成46年度に向けて】</p> <p>県内需要を拡大し、新たな販路や有利な販売先を確保・畜産クラスターの拡大、既存農家の規模拡大や新規就農者の確保により増頭を推進する。</p> <p>（ウ）豚</p> <p>【平成36年度に向けて】</p> <p>施設整備や高能力母豚の導入等、産業振興計画に基づき増頭する。</p> <p>【平成46年度に向けて】</p> <p>飼養管理技術の向上や母豚の生産能力向上により、さらなる増頭を推進する。</p> <p>・ 飼養頭数 単位:頭</p> <table border="1" data-bbox="248 1310 871 1445"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H36</th> <th>H46</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土佐あかうし</td> <td>1,810</td> <td>3,961</td> <td>4,117</td> </tr> <tr> <td>黒牛</td> <td>2,266</td> <td>2,654</td> <td>2,850</td> </tr> <tr> <td>豚</td> <td>25,733</td> <td>30,700</td> <td>34,000</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H36	H46	土佐あかうし	1,810	3,961	4,117	黒牛	2,266	2,654	2,850	豚	25,733	30,700	34,000	<p>○ 産業振興計画による増頭を見込んだ集荷案は適切か。</p> <p>○ 県外からの集荷はどのくらい見込めるのか。</p>	<p>県 将来の生産頭数の変動、管理運営経費の縮減等を考慮しつつ規模を決定する。</p> <p>県 新施設の規模、機能、事業費等については、検討会において協議・検討し、決定する。</p> <p>① 高知に合ったセンターにしていくことが必要。</p> <p>① 生産・流通・消費までを高知県内で施設を整備しながら行っていく必要がある。</p> <p>① 生産者、人をブランド化し、安心・安全な食肉を供給していく必要がある。顧客に選ばれる食肉センターとなるようにしていく必要がある。</p> <p>② 利益を得るために、製品の販売が必要。</p> <p>② と畜だけで経営ができない原因はどこにあるのか。</p> <p>② と畜には、牛で約2万円、豚で約2,190円必要で、と畜料金を上げなくては経営は無理だが、上げるとと畜頭数が減り、上げることができない実態がある。</p> <p>② と畜に係る経費は、基本的にと畜料金で賄うべきではないか。</p> <p>② 県内の2つの食肉センターが両立できる方向で模索していただきたい。</p> <p>② 高知県の畜産の10年後20年後のビジョンを明確にみんなで共通認識して議論すべき。</p>
	H27	H36	H46															
土佐あかうし	1,810	3,961	4,117															
黒牛	2,266	2,654	2,850															
豚	25,733	30,700	34,000															

- ② 処理頭数の見通し
 (ア) 土佐あかうし
 ・ 飼養頭数増に伴い、と畜頭数も増加
 (イ) 黒牛
 ・ 飼養頭数増に伴い、と畜頭数も増加
 (ウ) 豚
 ・ 増頭分を県内出荷へ、県外出荷分を県内出荷に取り込んでいく。

・ と畜頭数（県全体） 単位：頭

	H27	H36	H46
土佐あかうし	367	788	940
黒牛	670	844	899
豚	36,463	48,750	54,300

(2) 施設の規模と求められる機能

① 新食肉センターの処理頭数の見込み 単位：頭

	H27	H36	H46
牛・馬（豚換算）	9,168	11,560	12,388
豚・山羊	4,319	10,657	12,727
処理頭数合計（豚換算）	13,487	22,217	25,115

② 施設の規模及び建設コストの試算（第3回検討会）

- (ア) 施設整備の基本的な考え方
 ・ 今回の施設整備は、平成36年度の処理頭数に対応できる規模で行う。
 ・ 平成46年度に向けては、平成36年度を目途に施設の拡充等の検討を行う。

(イ) 新食肉センターの規模と建設コスト

〈注：処理頭数の見込みから機械的に算出したもの〉

- ・ 処理規模：220頭/日程度
- ・ 整備経費：16億円程度
- ・ 関連工事経費：5億円程度

○ 処理規模設定の基準を、1日平均と畜頭数とするのか。1日最大と畜頭数とするのか。

○ 牛と豚それぞれの稼働日数をどのように設定するのか。

○ 出荷日の調整はできるのか。

○ 必要な施設規模はどの程度か。

○ どのような機能を持たせるのか（と畜、セリ、部分肉加工、精肉やハム・ソーセージなどへの加工等）。

○ 機械化をどこまで進めるのか。

○ HACCPシステム導入や海外輸出に対応したハード整備を行うのか。

② 肉ではないところの価値に焦点を当てた考え、整備もしていただきたい。

② 現在の集荷2団体の再構築により経費を削減することも検討して提案していただきたい。

② 現在2団体が食肉加工で分かれているのが一番のネックになっていると思うので、その辺を議論していただきたい。

② センターの新機能については、調査して、たくさん盛り込んで、費用対効果も考慮した上で、必要性を議論し、削ってほしい。

② 最近のあかうしの価格の高さを維持できるのか、根拠があるのかを、今後の生産の見通し等も含めて冷静に見る必要がある。また、物材費だけでなく、人件費も含めてきちんと計算する必要がある。

② 施設はHACCPを含めて、コンパクトであっても機能は高い施設を造っていかねなければならない。

③ ソフト部分がブランド化になると思っている。社会情勢などの変化に対応できるように、経営等についての提案や生産者へ6次化等についての情報を提供する組織が必要だと思う。

③ 新センターの機能について多く盛り込んでいるが、と畜数220頭/日という小規模な施設でうまくやっていけるのか。

- ③ 求められる機能
- ・ HACCPの導入
 - ・ 機械導入による省力化
 - ・ 加工機能を拡充し、と畜以外の部分でも利益を生み出していく。

○ 県民に開かれた施設の視点をどのように取り入れるのか（見学者や研修者の受入れ機能、見学者通路の新設等）。

(3) 運営シミュレーション

- ① 牛：増頭分は全て高知市
豚：増頭分 1 / 2 は高知市、1 / 2 は四万十市

(ア) 処理頭数：概ね220頭（豚換算）
（牛22頭、豚123頭）

(イ) 運営収支 単位：千円

高知県新食肉センター（仮）	運営収支		
	初年度	5年後	15年後
と畜+内臓+部分肉加工+セリ	527	14,288	28,921

減価償却費：111,791千円（評価額2,235,825千円（本体及び附属棟工事費3,194,035千円の70%）、20年、公費負担がない場合）

(ウ) 整備経費 単位：千円

	本体工事	附属棟工事	外構工事等
1	1,577,000		500,000
2	2,600,000	594,035	333,418

(エ) 社会的な影響試算
家畜の輸送等、現在の体制と変わらない。

- ② 牛：全て高知市
豚：全て四万十市
(ア) 処理頭数：概ね185頭（豚換算）
（牛46頭）

(イ) 運営収支 単位：千円

高知県新食肉センター（仮）	運営収支		
	初年度	5年後	15年後
と畜+内臓+部分肉加工+セリ	50,777	63,374	75,610

減価償却費：76,091千円（評価額1,521,825千円（本体及び附属棟工事費2,174,035千円の70%））

%)、20年、公費負担がない場合)

(ウ) 整備経費 単位:千円

	本体工事	附属棟工事	外構工事等
1	1,332,000		500,000
2	1,580,000	594,035	297,905

(エ) 社会的な影響試算

合計 1,000万円/年程度

③牛:増頭分は全て高知市、四万十市出荷分は現状どおり

豚:全て四万十市

(ア) 処理頭数:概ね132頭(豚換算)

(牛33頭)

(イ) 運営収支 単位:千円

高知県新食肉センター(仮)	運営収支		
	初年度	5年後	15年後
と畜+内臓+部分肉加工+セリ	27,668	40,265	52,951

減価償却費:76,091千円(評価額1,521,825千円(本体及び附属棟工事費2,174,035千円の70%)、20年、公費負担がない場合)

(ウ) 整備経費

②と同様

(エ) 社会的な影響試算

②と同様

④牛・豚:全て四万十市

(ア) 処理頭数:概ね600頭(豚換算)

(牛18頭、豚530頭)

(イ) 運営収支 単位:千円

四万十市営食肉センター	運営収支		
	初年度	5年後	15年後
と畜	50,076	50,967	52,881

減価償却費:169,190千円(評価額3,383,800千円(本体及び附属棟工事費4,834,000千円の70%)、20年、公費負担がない場合)

(ウ) 整備経費

単位：千円

	本体工事	附属棟工事	外構工事等
1	4,334,000		500,000

(エ) 社会的な影響試算

合計 5億円／年程度

(4) 新たな負担

- ・固定資産税
- ・下水道使用料
- ・借地料
- ・不動産取得税

(5) 新食肉センターの設置による改善効果

(ア) 新たに部分肉加工＋内臓＋セリを取り込むことで経営の安定を図る

(イ) さらなる事業展開とし、収益増を図る。

- ・農協直販所への畜産物販売
- ・豚肉の卸売の拡大（豚のと畜がなくなっても、全農の行う豚肉卸売販売を継続する）
- ・県内酪農家から廃用牛の集荷及び県外と畜あかうしの集荷による収益増

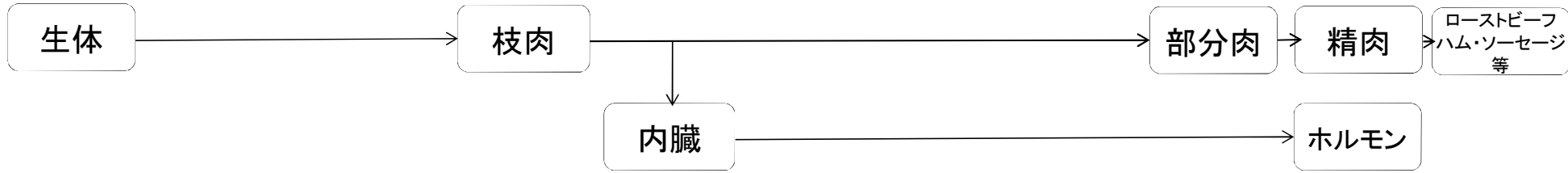
詳細は資料2－3参照

検討事項	主な視点・論点	これまでに示された意見や提案等
<p>4. 整備の場所</p> <p>・施設整備をするに当たって新たな用地を選定する場合は、住民の同意や用水や排水の条件を満たすことが必要となることから、新たな用地の確保が困難であり、現在地に整備することが望ましい。</p>	<p>○整備の場所はどこが適切か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在地での建て替え。 ・その他の場所での整備。 ・統合による整備。 	<p><u>あ</u> 県内最大消費地である高知市でも、加工・流通・販売などに多くの市民が関わっている。安心な食肉の提供には地元で食肉センターは必要。</p> <p>① できれば、四万十市への一本化してほしいと思っている。</p> <p>① 四万十市単独でも四万十市営食肉センターの議論を行っていく。市営を継続していきたい。</p> <p>① 県内人口の減少、県外産のと畜が多いなか2か所必要かなど冷静な議論が必要。</p> <p>② 現在地で建て替える場合、稼働しながら新しくできるか検討していただきたい。</p> <p>② その他の場所の設置について、具体的な話ができる範囲でお願いしたい。</p> <p><u>③ 現地での建て替え、四万十市で統合、その他の場所へ設置の3パターンでコスト試算をお願いしたい。</u></p>

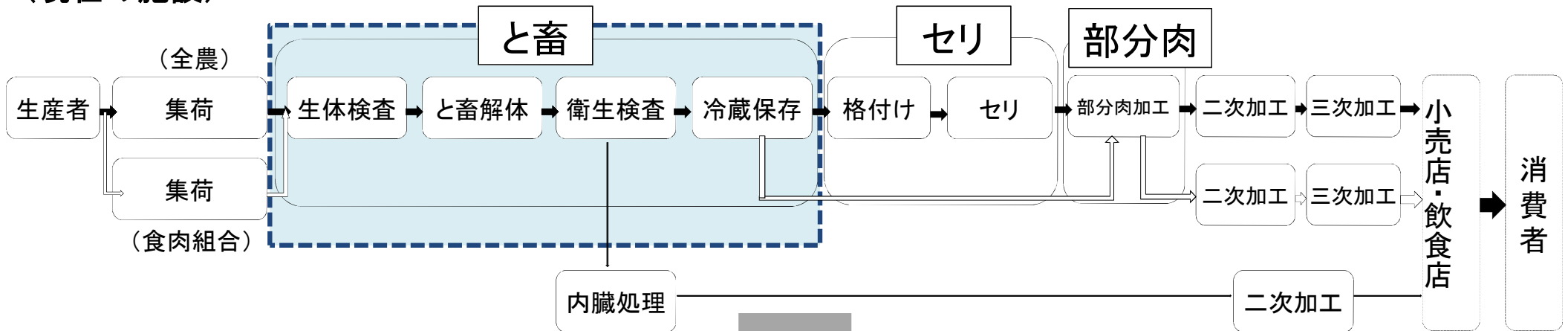
検討事項	主な視点・論点	これまでに示された意見や提案等
<p>5. 運営の体制</p> <p>(1) 全国の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置者については、民設も含め行政が何らかのかたちで関わっているものは全体の63% ・運営者については、民営も含め行政が何らかのかたちで関わっているものは全体の41% <p>(2) 今後の検討の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置、運営主体については、完全に民間に委ねるのではなく、行政が一定の関わりを持った組織体とすることを有力な選択肢のひとつとして検討していくべき。 ・今後は、行政と民間の施設整備に係る費用負担や出資について、生産者の側面や消費者の側面を考慮しながら検討していく。また、新食肉センターの施設規模や機能等の検討が進むなかで、新たな課題が生じることも想定されるため、行政、関係団体、生産者や消費者にとって最適なかたちとなるよう、検討会において引き続き議論を深めていく必要がある。 <p>詳細は資料3参照</p>	<p>○JAグループが中心となって担う運営体制はどうあるべきか。</p> <p>○県・市町村の運営への関わり方はどうあるべきか。</p>	<p>あ 食肉センターを建て替えた場合、今の枠組み（設置者が事務組合、運営者が公社）での存続は無理。</p> <p>J 新施設の運営はJAグループが中心となって担うが、県・市町村の関わりについても検討委員会で協議をお願いしたい</p> <p>県 新施設の管理運営は、JAグループが中心となって担う。（県・市町村の関わりは検討会で協議）</p> <p>② 株式会社のような運営主体を作り、民間企業の発想を入れて、付加価値を生んでいく流通の仕組みを作らなければ、将来成り立っていかない。</p> <p>② 販売で付加価値を上げないと経営は成立しない。業界関係の方々への調査が必要</p> <p>② 運営は民間発想で、JAグループが主体となり、新たな会社を作る方向でやらざるを得ない。</p> <p>② 運営はJAグループが主体となり、JAや生産者団体だけでなく、行政も含めて幅広い分野の方も含めて一緒にやっていきたい。</p>

検討事項	主な視点・論点	これまでに示された意見や提案等
6. 施設の整備	<p>○事業実施主体はどこが適切か。</p> <p>○建設費用の経費負担の割合はどうあるべきか。</p>	<p>J 新施設の建設に当たっては、国・県・市町村のご指導をいただき、公設民営を基本に検討委員会であらゆる可能性を検討します。</p> <p>あ 施設整備には、県も当然、公費の負担をしていく覚悟がある。</p> <p>あ 新施設の整備は、当然、市町村も入っていかざるを得ないのかとは思っている。</p> <p>あ 新施設の整備を全て税金で負担するのではなく、出荷団体でも応分負担する想定をしていただきたい。</p> <p>県 整備に要する経費の負担は、現在の食肉センターの整備、大規模改修の際の負担区分等を勘案し、検討会で協議する。</p> <p>② 新施設は、行政も畜産農家も応分の負担しながら、どのようにやっていくかを考えて議論していくべき。</p>

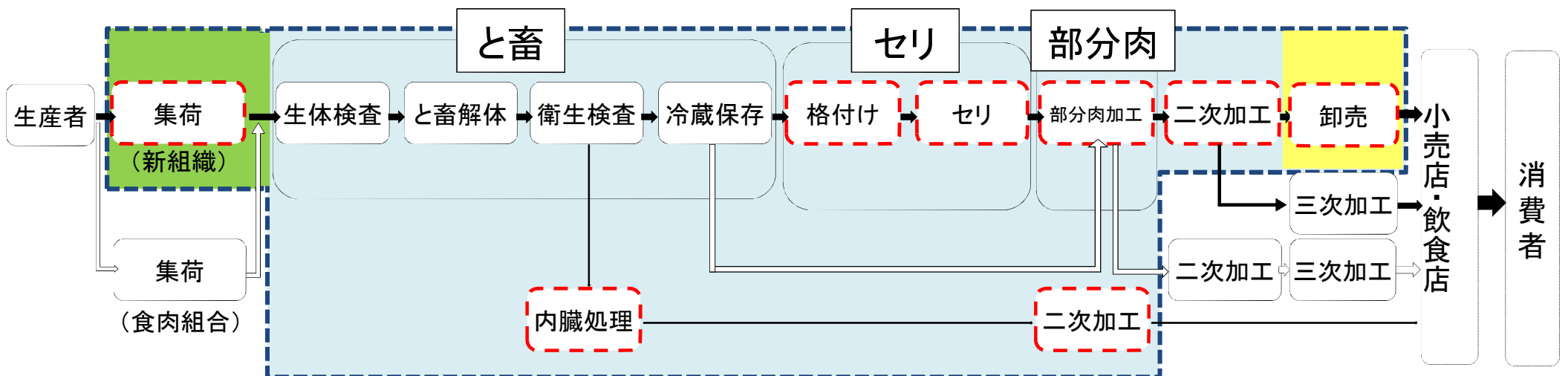
(生体の流れ)



(現在の施設)

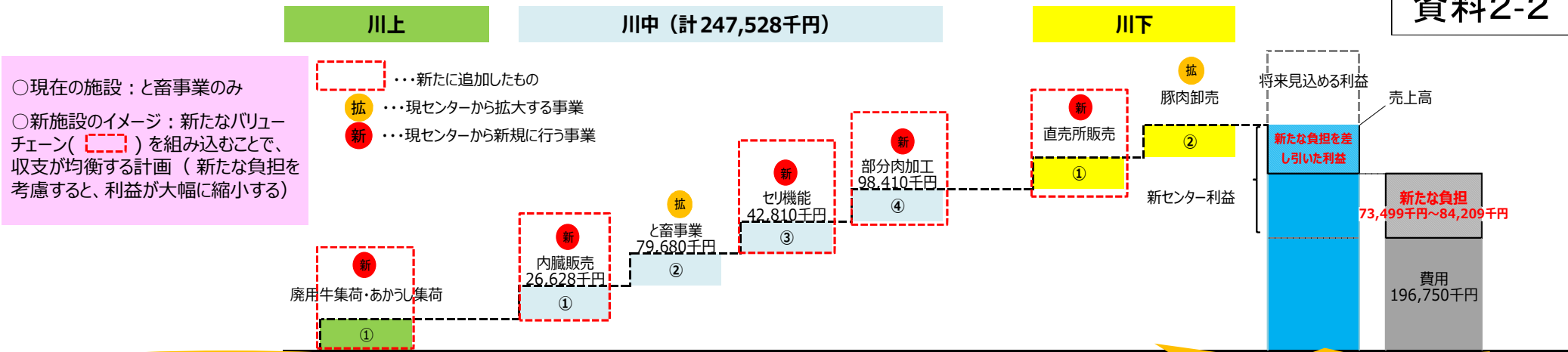


(新施設のイメージ)



--- バリューチェーンの取り込み

--- 新施設の新たに追加した機能



新食肉センターが取り込む機能

バリューチェーンの取り込み・新たな事業の開拓

川上(生体集荷事業等)

- ① 県内酪農家から廃用牛の集荷 **新**
 - ・県外へ出荷されている県内廃用牛(乳牛)を集荷、部分肉加工、販売
 - ・と畜数増加(年間推定542頭)
 - ※集荷努力及び販路の開拓必要
- ② 県外と畜あかうしの集荷 **新**
 - ・県外へ出荷されている土佐あかうし(本山町)を集荷、部分肉加工
 - ・徳島県でと畜47頭(H27実績)
 - ※集荷努力が必要

将来見込める利益

- 産業振興計画に基づく増頭
- ・さらなる生産振興、需要の開拓

川中(加工・流通事業等)

- ① 内臓販売の強化 **新**
 - ・2次加工をして、内臓業者へ販売
 - ・内臓業者には、十分な洗浄処理後の内臓が手に入るメリット
 - ※内臓業者の理解、協力が必要
- ② と畜事業の強化 **新**
 - ・作業職員がと畜以外に加工等に従事することによるコスト削減
 - ・と畜数増加による収入の増加
- ③ セリ機能の強化 **新**
 - ・と畜数増加によるセリ頭数の増加
- ④ 部分肉加工の強化 **新**
 - ・部分肉加工のラインを一本化することによる効率化

将来見込める利益

- HACCP対応・輸出対応
 - ・輸向けなど新たなニーズを取り込み
- 食肉加工品の製造
 - ・ローストビーフ・ハム・ソーセージなどの食肉加工品を製造
 - ・センター内で原料を仕入れるので調達コストが安価
 - ・不要部位の活用も可能
- ふるさと納税返礼品の加工受託
 - ・市町村と連携し、畜産物加工品製造を請負

川下(直売所事業等)

- ① 農協直売所への畜産物卸売 **新**
 - ・新たな販路の確保
 - ・グループ内流通による中間流通コスト削減の結果、利益増加
 - ※2次加工施設の整備が必要
- ② 豚肉の卸売 **新**
 - ・豚肉の卸売りを拡大することによる利益の増加

将来見込める利益

- 学校給食への食肉の提供
 - ・既存流通ルートを活用
 - ・安定した収益源の確保
- 直営店・飲食店の経営(6次産業化)
 - ・直営による利益率の向上
- 観光業との連携
 - ・畜産物を取扱うレストランの開拓
- 地産外商の強化
 - ・地産外商公社との連携

川上から川下まで取り込むことにより

- ◆調達コストの低下等の経費削減・新たな事業の開始・と畜から加工販売まで一気通貫で行うことにより、バリューチェーン全体の利益を拡大させる。
- ◆その上で、拡大させた利益の一部を、新たな食肉センターに取り込む。

新食肉センターの運営シミュレーション

資料2-3

		存続(2か所)												統合(四万十市)								
パターン	①				②				③				④									
集荷内容	牛:増頭分は全て高知市 豚:増頭分1/2は高知市、1/2は四万十市				牛:全て高知市 豚:全て四万十市				牛:増頭分は全て高知市、四万十市出荷分は現状どおり 豚:全て四万十市				牛・豚:全て四万十市									
処理頭数	概ね220頭(豚換算)(牛22頭、豚123頭)				概ね185頭(豚換算)(牛46頭)				概ね132頭(豚換算)(牛33頭)				概ね600頭(豚換算)(牛18頭、豚530頭)									
運営収支	(千円)																					
	高知県新食肉センター(仮)				高知県新食肉センター(仮)				高知県新食肉センター(仮)				四万十市営食肉センター									
			運営収支				運営収支				運営収支				運営収支							
		初年度	5年後	15年後		初年度	5年後	15年後		初年度	5年後	15年後		初年度	5年後	15年後						
1	と畜	▲ 10,885	▲ 6,210	▲ 156	1	と畜	▲ 10,707	▲ 8,119	▲ 5,555	1	と畜	▲ 26,765	▲ 24,177	▲ 21,613								
2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	527	14,288	28,921	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	50,777	63,374	75,610	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	27,668	40,265	52,951								
減価償却費:111,791千円(評価額2,235,825千円(本体及び附属棟工事費3,194,035千円の70%)、20年、公費負担がない場合)																						
(メリット) ・部分肉加工+内臓+セリで経営が安定 ・初年度から運営収支が黒字																						
(デメリット) ・②に比べ、牛の部分肉加工頭数が減るため収益が減																						
※参考:(減価償却費を含む場合)																						
1	と畜	▲ 122,876	▲ 118,001	▲ 111,947	1	と畜	▲ 86,798	▲ 84,210	▲ 81,646	1	と畜	▲ 102,856	▲ 100,268	▲ 97,704								
2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 111,264	▲ 97,503	▲ 82,870	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 25,314	▲ 12,717	▲ 481	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 48,423	▲ 35,826	▲ 23,140								
減価償却費:76,091千円(評価額1,521,825千円(本体及び附属棟工事費2,174,035千円の70%)、20年、公費負担がない場合)																						
(メリット) ・部分肉加工+内臓+セリで経営が安定 ・初年度から運営収支が黒字 ・と畜日、加工日を分けることによる作業員の兼業化 ・牛の頭数が多く、内臓販売額等が増加																						
(デメリット) ・豚の収入が減																						
※参考:(減価償却費を含む場合)																						
1	と畜	▲ 102,856	▲ 100,268	▲ 97,704	1	と畜	▲ 86,798	▲ 84,210	▲ 81,646	1	と畜	▲ 102,856	▲ 100,268	▲ 97,704								
2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 48,423	▲ 35,826	▲ 23,140	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 25,314	▲ 12,717	▲ 481	2	と畜+内臓+部分肉加工+セリ	▲ 48,423	▲ 35,826	▲ 23,140								
減価償却費:76,091千円(評価額1,521,825千円(本体及び附属棟工事費2,174,035千円の70%)、20年、公費負担がない場合)																						
(メリット) ・部分肉加工+内臓+セリで経営が安定 ・初年度から運営収支が黒字 ・と畜日、加工日を分けることによる作業員の兼業化																						
(デメリット) ・②に比べ、牛の部分肉加工頭数が減るため収益が減 ・豚の収入が減																						
社会的な影響試算	<プラス面>	○家畜の輸送等、現在の体制と変わらない。																				
	<マイナス面>	○家畜の輸送等、現在の体制と変わらない。																				
	○牛・豚とも主要な産地の近くでと畜が可能 (牛:嶺北地域 豚:四万十町、幡多地域) ○と畜料金減少 ・高知市へ出荷している豚農家(年間出荷合計1,200頭) ○と畜料金増加・輸送距離の延長によるコストの増加 ・四万十市へ出荷している牛農家(年間出荷合計866頭) ○輸送距離の延長によるコストの増加 ・高知市へ出荷している豚農家(年間出荷合計1,200頭) ○輸送時間の延長による体重減少による損失																					
	○このほか、四万十市の牛肉加工施設の雇用の喪失(4人)																					
合計 1,000万円/年程度																						
運営に係る新たな負担(市)	<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税(高知市:評価額×1.5%) :22,827千円(評価額1,521,825千円)~33,537千円(評価額2,235,825千円) ・下水道使用料(高知市) :240m²/日の場合(実績ベース) 18,691千円/年 ・借地料(高知市:評価額×4.0%) :31,981千円/年 <p style="text-align: center;">合計:73,499千円~84,209千円</p>																					
	<p>※新食肉センターで内臓・セリ・部分肉加工を加えても、上記負担が生じれば運営収支は大きく赤字</p> <p style="text-align: center;">➡</p> <p>新たな収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農協直販所への畜産物販売 ・豚肉の卸売 ・県内酪農家から廃用牛の集荷及び県外と畜あかうしの集荷 <p>※運営費等を新たな収益でカバー</p>																					
整備経費	(千円)																					
	高知県新食肉センター(仮)				高知県新食肉センター(仮)				高知県新食肉センター(仮)				四万十市営食肉センター									
			本体工事		附属棟工事		外構工事等				本体工事		附属棟工事		外構工事等				整備経費		関連工事経費	
	1*	1,577,000		500,000	1*	1,332,000		500,000	1*	1,332,000		500,000	1*	4,334,000		500,000						
2**	2,600,000	594,035	333,418	2**	1,580,000	594,035	297,905	2**	1,580,000	594,035	297,905											
※1:1頭あたり単価(豚換算)720万円で機械的に算定した場合 ※2:整備経費については、業者の参考概算工事費等から試算 ②と③については、概ね185頭(豚換算)(牛46頭)で試算 (※1、※2いずれも工事費には造成杭打ち費、撤去工事費等は含まない。)																						
(メリット) ・整備経費が縮小 ・四万十市で牛のと畜をしなくなるため、四万十市で新たな食肉センターを整備する場合、牛ラインの整備が不要																						
(デメリット) ・牛のと畜ラインと豚のと畜ラインが必要になることから整備費用がかさむ。																						
(メリット) ・同左																						
(デメリット) ・H36のと畜頭数は概ね540頭/日の見込みのため、更なる増頭で整備経費に国の補助金が活用できる可能性あり。(強い農業づくり交付金要件=概ね700頭規模(8割の頭数560頭が目安)) ・牛のと畜ラインと豚のと畜ラインが必要になることから整備費用が高額																						
施設整備に係る新たな負担(県)	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産取得税(高知県:評価額×1/2×4.0%):30,437千円(評価額1,521,825千円)~44,717千円(評価額2,235,825千円) <p>※固定資産税評価額の1/2が家屋分と想定</p>																					
	※現在地以外の場所でのシミュレーション (1)運営収支:パターン①②③と同様 (2)整備費 :パターン①②③と同様。ただし、新たに用地費が必要。さらに、適地調査や周辺対策等に長期間を要する可能性が高い。																					

新食肉センターの設置による改善効果

パター	現 状	存続(2か所)																																																																																																																																
		①	②	③																																																																																																																														
集荷内容	牛・豚:高知市と四万十市でそれぞれ実施	牛:増頭分は全て高知市 豚:増頭分1/2は高知市、1/2は四万十市	牛:全て高知市 豚:全て四万十市	牛:増頭分は全て高知市、四万十市出荷分は現状どおり 豚:全て四万十市																																																																																																																														
処 理 頭 数	<p>・牛も豚も減少傾向であった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">(頭)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">高知県広域新食肉センター</th> <th style="text-align: center;">H27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">牛</td> <td style="text-align: center;">2,292</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚</td> <td style="text-align: center;">4,319</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚換算頭数</td> <td style="text-align: center;">13,487</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※ 牛:馬を含む 豚:山羊を含む</small></p>	(頭)		高知県広域新食肉センター	H27年度	牛	2,292	豚	4,319	豚換算頭数	13,487	<p>・肉用牛は、土佐あかうしの増頭対策により徐々に増加</p> <p>・豚は、四万十町における増頭対策により徐々に増加</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(頭)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">新食肉センター</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">牛</td> <td style="text-align: center;">2,710</td> <td style="text-align: center;">2,890</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">3,097</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚</td> <td style="text-align: center;">9,419</td> <td style="text-align: center;">10,657</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">12,727</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚換算頭数</td> <td style="text-align: center;">20,259</td> <td style="text-align: center;">22,217</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">25,115</td> </tr> </tbody> </table>	(頭)					新食肉センター	初年度	5年後	15年後		牛	2,710	2,890	3,097		豚	9,419	10,657	12,727		豚換算頭数	20,259	22,217	25,115		<p>・肉用牛は土佐あかうしの増頭対策及び新たに四万十町・中土佐町の牛の集荷により大幅に増加</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(頭)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">新食肉センター</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">牛</td> <td style="text-align: center;">3,757</td> <td style="text-align: center;">3,937</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">4,144</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚換算頭数</td> <td style="text-align: center;">15,028</td> <td style="text-align: center;">15,748</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">16,576</td> </tr> </tbody> </table>	(頭)					新食肉センター	初年度	5年後	15年後		牛	3,757	3,937	4,144		豚	0	0	0		豚換算頭数	15,028	15,748	16,576		<p>・肉用牛は、土佐あかうしの増頭対策により徐々に増加</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(頭)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">新食肉センター</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">牛</td> <td style="text-align: center;">2,710</td> <td style="text-align: center;">2,890</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">3,097</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">豚換算頭数</td> <td style="text-align: center;">10,840</td> <td style="text-align: center;">11,560</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">12,388</td> </tr> </tbody> </table>	(頭)					新食肉センター	初年度	5年後	15年後		牛	2,710	2,890	3,097		豚	0	0	0		豚換算頭数	10,840	11,560	12,388																																										
(頭)																																																																																																																																		
高知県広域新食肉センター	H27年度																																																																																																																																	
牛	2,292																																																																																																																																	
豚	4,319																																																																																																																																	
豚換算頭数	13,487																																																																																																																																	
(頭)																																																																																																																																		
新食肉センター	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
牛	2,710	2,890	3,097																																																																																																																															
豚	9,419	10,657	12,727																																																																																																																															
豚換算頭数	20,259	22,217	25,115																																																																																																																															
(頭)																																																																																																																																		
新食肉センター	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
牛	3,757	3,937	4,144																																																																																																																															
豚	0	0	0																																																																																																																															
豚換算頭数	15,028	15,748	16,576																																																																																																																															
(頭)																																																																																																																																		
新食肉センター	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
牛	2,710	2,890	3,097																																																																																																																															
豚	0	0	0																																																																																																																															
豚換算頭数	10,840	11,560	12,388																																																																																																																															
運 営 収 支	<p>○現センターはと畜のみを行う</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">(千円)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">高知県広域新食肉センター</th> <th style="text-align: center;">平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">と畜</td> <td style="text-align: center;">▲ 34,967</td> </tr> </tbody> </table> <p>・処理頭数の減少により赤字が継続</p>	(千円)		高知県広域新食肉センター	平成27年度	と畜	▲ 34,967	<p>○新たに部分肉加工+内臓+セリを取り込むことで経営の安定を図る</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">新たな機能を取り込んだ収支</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">と畜・内臓</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">と畜・内臓</td> <td style="text-align: center;">4,735</td> <td style="text-align: center;">9,587</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">14,056</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">部分肉加工</td> <td style="text-align: center;">▲ 10,134</td> <td style="text-align: center;">▲ 6,451</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">▲ 2,156</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">セリ</td> <td style="text-align: center;">41,810</td> <td style="text-align: center;">47,460</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">53,957</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般管理費</td> <td style="text-align: center;">▲ 35,885</td> <td style="text-align: center;">▲ 36,308</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">▲ 36,936</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;">527</td> <td style="text-align: center;">14,288</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">28,921</td> </tr> </tbody> </table> <p>・初年度から運営収支が黒字 ・②に比べ、牛の部分肉加工頭数が減るため収益が減</p>	(千円)					新たな機能を取り込んだ収支					と畜・内臓	初年度	5年後	15年後		と畜・内臓	4,735	9,587	14,056		部分肉加工	▲ 10,134	▲ 6,451	▲ 2,156		セリ	41,810	47,460	53,957		一般管理費	▲ 35,885	▲ 36,308	▲ 36,936		合 計	527	14,288	28,921		<p>○新たに部分肉加工+内臓+セリを取り込むことで経営の安定を図る</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">新たな機能を取り込んだ収支</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">と畜・内臓</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">と畜・内臓</td> <td style="text-align: center;">29,932</td> <td style="text-align: center;">33,463</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">35,274</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">部分肉加工</td> <td style="text-align: center;">13,788</td> <td style="text-align: center;">17,359</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">21,467</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">セリ</td> <td style="text-align: center;">41,810</td> <td style="text-align: center;">47,460</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">53,957</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般管理費</td> <td style="text-align: center;">▲ 34,753</td> <td style="text-align: center;">▲ 34,908</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">▲ 35,088</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;">50,777</td> <td style="text-align: center;">63,374</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">75,610</td> </tr> </tbody> </table> <p>・初年度から運営収支が黒字</p>	(千円)					新たな機能を取り込んだ収支					と畜・内臓	初年度	5年後	15年後		と畜・内臓	29,932	33,463	35,274		部分肉加工	13,788	17,359	21,467		セリ	41,810	47,460	53,957		一般管理費	▲ 34,753	▲ 34,908	▲ 35,088		合 計	50,777	63,374	75,610		<p>○新たに部分肉加工+内臓+セリを取り込むことで経営の安定を図る</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">新たな機能を取り込んだ収支</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">と畜・内臓</th> <th style="text-align: center;">初年度</th> <th style="text-align: center;">5年後</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">15年後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">と畜・内臓</td> <td style="text-align: center;">14,691</td> <td style="text-align: center;">18,222</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">20,484</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">部分肉加工</td> <td style="text-align: center;">5,013</td> <td style="text-align: center;">8,585</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">12,692</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">セリ</td> <td style="text-align: center;">41,810</td> <td style="text-align: center;">47,460</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">53,957</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般管理費</td> <td style="text-align: center;">▲ 33,846</td> <td style="text-align: center;">▲ 34,002</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">▲ 34,181</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;">27,668</td> <td style="text-align: center;">40,265</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">52,951</td> </tr> </tbody> </table> <p>・初年度から運営収支が黒字 ・②に比べ、牛の部分肉加工頭数が減るため収益が減</p>	(千円)					新たな機能を取り込んだ収支					と畜・内臓	初年度	5年後	15年後		と畜・内臓	14,691	18,222	20,484		部分肉加工	5,013	8,585	12,692		セリ	41,810	47,460	53,957		一般管理費	▲ 33,846	▲ 34,002	▲ 34,181		合 計	27,668	40,265	52,951	
(千円)																																																																																																																																		
高知県広域新食肉センター	平成27年度																																																																																																																																	
と畜	▲ 34,967																																																																																																																																	
(千円)																																																																																																																																		
新たな機能を取り込んだ収支																																																																																																																																		
と畜・内臓	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
と畜・内臓	4,735	9,587	14,056																																																																																																																															
部分肉加工	▲ 10,134	▲ 6,451	▲ 2,156																																																																																																																															
セリ	41,810	47,460	53,957																																																																																																																															
一般管理費	▲ 35,885	▲ 36,308	▲ 36,936																																																																																																																															
合 計	527	14,288	28,921																																																																																																																															
(千円)																																																																																																																																		
新たな機能を取り込んだ収支																																																																																																																																		
と畜・内臓	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
と畜・内臓	29,932	33,463	35,274																																																																																																																															
部分肉加工	13,788	17,359	21,467																																																																																																																															
セリ	41,810	47,460	53,957																																																																																																																															
一般管理費	▲ 34,753	▲ 34,908	▲ 35,088																																																																																																																															
合 計	50,777	63,374	75,610																																																																																																																															
(千円)																																																																																																																																		
新たな機能を取り込んだ収支																																																																																																																																		
と畜・内臓	初年度	5年後	15年後																																																																																																																															
と畜・内臓	14,691	18,222	20,484																																																																																																																															
部分肉加工	5,013	8,585	12,692																																																																																																																															
セリ	41,810	47,460	53,957																																																																																																																															
一般管理費	▲ 33,846	▲ 34,002	▲ 34,181																																																																																																																															
合 計	27,668	40,265	52,951																																																																																																																															
更なる事業展開		<p>・農協直販所での販売</p> <p>・豚肉の卸売の拡大(豚のと畜がなくなっても、全農の行う豚肉卸売販売を継続する)</p> <p>・県内酪農家から廃用牛の集荷及び県外と畜あかうしの集荷による収益増</p>																																																																																																																																

食肉センターの運営シミュレーションの前提条件

細見委員
提出資料

1. 収入

- ・と畜頭数:産業振興計画の頭数(H36年度飼養頭数:土佐あかうし:3,961頭、黒牛2,654頭、豚:30,700頭)から試算
- ・格付手数料:と畜頭数(豚換算)に比例
- ・部分肉加工料金:肉用牛はと畜頭数の80%、34千円/頭、豚はと畜頭数の90%、2.4千円/頭で試算
- ・セリ手数料:牛の増頭分(全農集荷分のみ)に比例して積算(H27年度実績(29,691千円/946頭=31,385円)を基準)
- ・内臓販売手数料:2次加工を職員が行い、現在より高い価格で内臓業者の販売

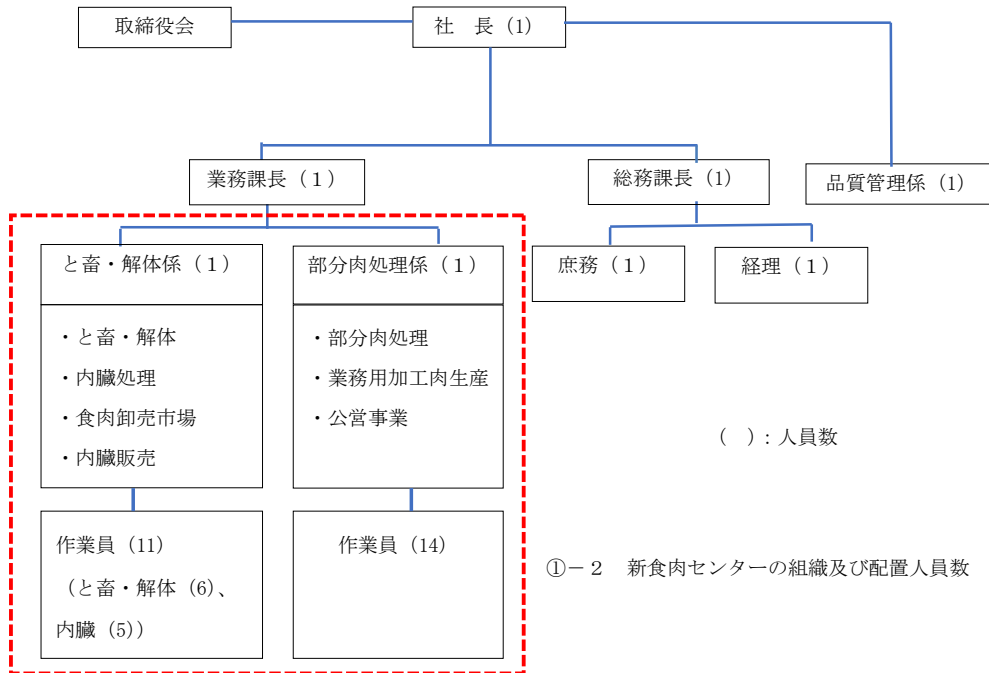
2. 支出

- ・人件費:管理部6名(社長1名、業務課長及び総務課長各1名、総務課2名、品質管理課1名)及び現場作業員(18~27名)で構成。管理部人件費5,000千円/人/年、現場作業員人件費4,000千円/人/年で積算
- ・牛のみの場合は、と畜2日、部分肉処理3日/週とし、人の流動化により人件費を削減
- ・光熱水費、燃料費及び消耗品費:と畜頭数(豚換算)に比例。
- ・修繕費:新築になることから、初年度1,000千円とし、毎年10%増加
- ・委託費:内臓洗いを新食肉センターの職員が実施するため、内臓洗いの委託料(7,605千円)を減額、メンテナンス委託料を追加(2,000千円)。他は据え置き。
- ・格付手数料支払:と畜頭数(豚換算)に比例
- ・減価償却費、固定資産税、下水道使用料、借地料及び不動産取得税については試算に入れていない。

新食肉センターの組織体制（案）

① 牛増頭分と豚増頭分の1/2を集荷

- ・組織は、業務課と総務課の2課体制とし、品質管理係を設ける。
- ・業務課はと畜・解体係と部分肉処理係を設け、牛及び豚等のと畜・解体係はと畜・解体、内臓処理、食肉卸売市場業務及び内臓販売業務、業務用加工肉生産及び公益事業を行う。
- ・部分肉処理は部分肉処理、高度加工及び公益事業を行う。
- ・総務課は庶務掛と経理係を設け、庶務に関する業務及び経理に関する業務を行う。
- ・品質管理係はHACCPによる食肉衛生及び食肉品質の高度化を行う。



①-2 新食肉センターの組織及び配置人員数

(作業員数の積算根拠)

と畜・解体作業

・年間処理頭数 (H36 年度)

大動物 : 2,890 頭

小動物 : 10,656 頭

・稼働日数 (1 週間のうち 3 日大動物、2 日小動物)

大動物 : 144 日 (240 日 (年間稼働日数 240 日) × 3 日 / 5 日)

小動物 : 96 日 (240 日 × 2 日 / 5 日)

・1 日当たり処理頭数

大動物 : 20 頭 (2,890 頭 / 144 日)

小動物 : 111 頭 (10,656 頭 / 96 日)

・大動物のと畜・解体の作業員数

20 頭 (1 日当たり処理頭数) ÷ 3.4 頭 (1 人 1 日当たり処理頭数) = 6 人

・豚のと畜・解体の作業員数

111 頭 (1 日当たり処理頭数) ÷ 20 頭 (1 人 1 日当たり処理頭数) = 6 人

・大動物の内臓処理の作業員数 = 5 人

豚の内臓処理の作業員数 = 5 人

・牛の部分肉処理

16 頭 (1 日当たり処理頭数) ÷ 1.3 頭 (1 人 1 日当たり処理頭数) = 12 人

・豚の部分肉処理

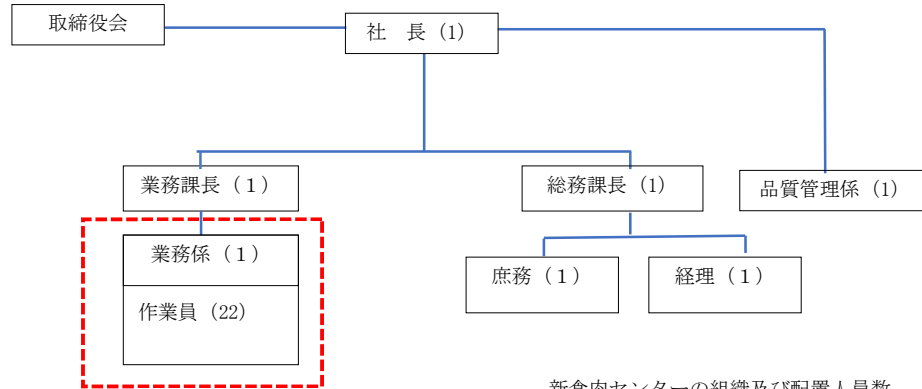
100 頭 (1 日当たり処理頭数) ÷ 9.6 頭 (1 人 1 日当たり処理頭数) = 10 人

・牛の業務用加工肉生産: 2 人

・豚の業務用加工肉生産: 2 人

② 牛の県内出荷分を全頭集荷、豚なし

- ・組織は業務課と総務課の2課体制とし、品質管理係を設ける。
- ・業務課は業務係を設け、牛のと畜・解体、内臓処理、食肉卸売市場業務、内臓販売、業務用加工肉の生産及び公益事業を行う。
- ・総務課は総務係を設け庶務に関する業務及び経理に関する業務を行う。
- ・品質管理係は HACCP による食肉衛生及び食肉品質の高度化を行う。(図-4)



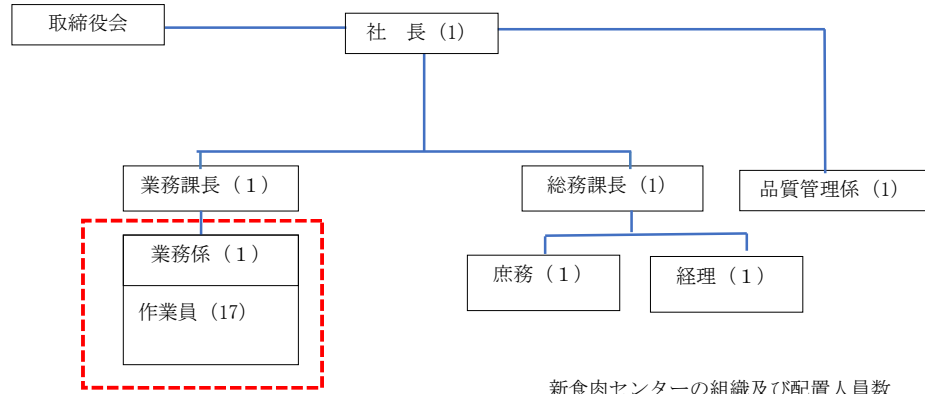
新食肉センターの組織及び配置人員数

(作業員数の積算根拠)

- ・年間処理頭数 (H36 年度)
 - 大動物 3,937 頭
- ・稼働日数(1週間のうち、と畜・解体 2日、部分肉処理 3日)
 - と畜・解体 = 96 日(年間稼働日数240日)×2日/5日
 - 部分肉処理=144 日(年間稼働日数240日)×3日/5日
- ・1日当たりの処理頭数
 - 大動物のと畜・解体 : 41 頭(3,937 頭/96 日)
 - 牛の部分肉処理 : 21 頭(3,038 頭/144 日)
- ・大動物のと畜・解体の作業員数
 - 41 頭(1日当たりの処理頭数)÷3.4 頭 = **12 人**
- ・大動物の内臓処理の作業員数: **10 人**
- ・牛の部分肉処理
 - 21 頭(1日当たりの処理頭数)÷1.3頭(1日当たりの処理頭数) = 16 人
- ・牛の業務用加工肉生産:2人

③ 牛増頭分のみ、豚なし

- ・組織は業務課と総務課の2課体制とし、品質管理係を設ける。
- ・業務課は業務係を設け、牛のと畜・解体、内臓処理、食肉卸売市場業務、内臓販売、業務用加工肉の生産及び公益事業を行う。
- ・総務課は総務係を設け庶務に関する業務及び経理に関する業務を行う。
- ・品質管理係は HACCP による食肉衛生及び食肉品質の高度化を行う。(図-4)



(作業員数の積算根拠)

- ・年間処理頭数
大動物 2,890 頭
- ・稼働日数(1週間のうち、と畜・解体 2日、部分肉処理 3日)
と畜・解体 = 96 日(年間稼働日数 240 日)×2日/5日
部分肉処理 = 144 日(年間稼働日数 240 日)×3日/5日
- ・1日当たりの処理頭数
大動物のと畜・解体 : 30 頭(2,890 頭/96 日)
牛の部分肉処理 : 16 頭(2,201 頭/144 日)
- ・大動物のと畜・解体の作業員数
30 頭(1日当たりの処理頭数)÷3.4 頭 = 9人
- ・大動物の内臓処理の作業員数:8人
- ・牛の部分肉処理
16 頭(1日当たりの処理頭数)÷1.3 頭(1日当たりの処理頭数) = 13 人
- ・牛の業務用加工肉生産:2人

新食肉センターの設置・運営体制について

(1) 全国の状況(平成28年3月時点と畜場リスト(144件)に基づく)

- ・設置者については、「公設」が47%、「民設」が53%。また、民設のうち、「株式会社」が占める割合が74%(うち行政出資40%)、次いで協同組合が9%となっている。(民設も含め行政が何らかのかたちで関わっているものは全体の63%)
- ・運営者については、「公営」が12%、「民営」が88%。また、民営のうち、「株式会社」が占める割合が64%(うち行政出資51%)、次いで協同組合が9%となっている。(民営も含め行政が何らかのかたちで関わっているものは全体の41%)

(2) 設置・運営形態の違いによるメリット、デメリット等

- ・全国の状況も参考に、これまでの整備検討会での議論を踏まえ、設置者については「公設」もしくは「民設」、また、運営者については、民営で行うという前提のもと、「公設」または「官民共同出資の組織体」もしくは「JAグループを主体とする民間組織」の違いによるメリット、デメリットについて、以下のとおり整理した。

		設置者			運営者	
		公設	民設		民営	
			官民共同出資の組織体	JAグループを主体とする民間組織	官民共同出資の組織体	JAグループを主体とする民間組織
メリット	経営面からの視点	①施設の維持管理、更新等の後年の負担についての行政の役割が明確になる	①施設の維持管理、更新等の後年の負担についての行政の役割が明確になる	①行政の負担が比較的小さい ②意思決定が早い ③民間のノウハウを活かせる(※)	①運営に対して行政が責任を負うとともに、一定の関与がある(食の安全の担保、ブランド化の推進など)	①組織内の意思決定が複雑でないため、様々な事象に対してスピード感を持った対応が可能
	生産者、消費者からの視点	①継続性・安定性のリスクが小さい	①継続性・安定性のリスクが比較的小さい		①運営に対して行政が責任を負うとともに、一定の関与がある(食の安全の担保、ブランド化の推進など) ②継続性・安定性のリスクが比較的小さい ③経営の透明性が図られる	①経営責任の所在が明確
デメリット	経営面からの視点	①行政による負担が大きい ②意思決定に時間を要する	①行政による負担が比較的大きい	①施設の維持管理、更新等の後年の負担についての行政の役割が明確でない	①赤字の際に行政負担が生じる恐れがある ②意思決定に時間を要する ③経営責任の所在が曖昧になる恐れがある	①運営に対して行政が責任を負わず、関与が及ばない
	生産者、消費者からの視点			①継続性・安定性のリスクが比較的大きい	①赤字の際に行政負担が生じる(税金の投入)恐れがある	①運営に対して行政が責任を負わず、関与が及ばない ②継続性・安定性のリスクが大きい ③営利優先になりやすい
実現に向けた課題		・施設整備の費用負担割合を含めた県、市町村の合意形成	・出資割合、施設整備の費用負担割合を含めた県、市町村、関係団体の合意形成	・施設整備に対する補助金の負担割合(初期投資軽減のためには補助が必要)	・出資割合を含めた県、市町村、関係団体の合意形成 ・安定運営(黒字化)に向けた事業の検討	・安定運営(黒字化)に向けた事業の検討
備考		(※)施設の規模、機能、用途について、新食肉センター整備検討会において、行政と民間関係者参加のもと議論がなされており、公設の場合においても民間事業者のノウハウを活かした施設の整備は一定可能であると思料				

(3) 今後の検討の方向性について

○以上のように、全国の状況においても、設置、運営形態の違いによるメリット、デメリットは様々であるが、本県における食肉センターは、県全体の畜産振興、さらには食肉の安全な供給という観点から、極めて重要な役割を担う「公共財」である。また、高知県産業振興計画において取り組みを進めている「畜産クラスター」の形成の観点からも、特に本県のような零細な生産者の多い中山間地域においては、産地の近くにある食肉センターは、生産拡大や食品加工による高付加価値化など、拡大再生産を図るうえで重要な役割を担っている。

○そうしたことから、設置、運営主体については、完全に民間に委ねるのではなく、行政が一定の関わりを持った組織体とすることを有力な選択肢のひとつとして検討していくべきである。

○今後の検討においては、行政と民間の施設整備に係る費用負担や出資について、生産者の側面や消費者の側面を考慮しながら今後検討していく。また、新食肉センターの施設規模や機能等の検討が進むなかで、新たな課題が生じることも想定されるため、行政、関係団体、生産者や消費者にとって最適なかたちとなるよう、検討会において引き続き議論を深めていく必要がある。